

小川 やすえ

滋賀県議会議員



●プロフィール●

- 徳島県鳴門市出身●岡山大学文学部卒業●1996年滋賀へ●1997年子育てや女性の歩を応援する「びいめ〜る企画室」創設。情報紙発行、コミュニティカフェ運営等に携わる
- 2011年～2014年守山市議会議員
- 2019年～滋賀県議会議員

副委員長をつとめた総務公室企画常任委員会では、今年度「CO2 ネットゼロ推進条例」や高専の構想骨子、広報戦略などを策定。委員長の代理として2度委員会運営も行いました。



高止まりしていた新型コロナウイルス感染者数が、滋賀でもようやく減少傾向となり、病床使用率も5割を下回ってきました。行動ルールの見直しの議論も始まっていますが、新年度に向けて人の動きが活発となり、再び感染拡大につながるのではとの危惧も聞かれます。

また、医療体制だけではなく、保健所等の負担、子どもたちへの負担、休園・休校に伴う保護者の負担、そして経済への影響などについても、しっかりと目を配り、オミクロン株の特性にあわせた対策を構築すべきと考えます。

皆様には、引き続き基本的な感染対策の徹底などをお願いすることになりますが、ご協力どうぞよろしく御願いたします。

Topics

- 2月定例会議報告
- 令和4年度予算について
- 違法個室マッサージ店摘発!

2月定例会議報告



2月定例会議では、一般質問「孤立死」「県営住宅へのケアリーパー単身入居」について、予算質疑では「動物愛護」「特別支援学級の加配」等5点を質問しました。

滋賀県議会ホームページの録画でもご覧頂けます。



誰一人取り残さない 孤独・孤立対策について

県内で昨年末に47歳の男性が自宅で死亡後一ヶ月で発見された事例から、実は身近にあるにも関わらず、国の定義がないこともあり、様々な社会課題が凝縮したと言える「孤立死」が見えなくなっていることへの問題提起をしました。

●「警察が取り扱った死体」、いわゆる「異状死」の推移と、うち「独居の方はどれくらいか」

警察本部長 ▼平成30年が異状死1656体中独居522体、令和元年が1584体中531体、令和2年が1600体中530体、令和3年が1692体中518体となっている。

●「一人暮らし」の者の異状死を「広義の孤独死」とみなす、という学術記事もあり、最も広義に解釈すれば、滋賀の「孤立死」はこれに近い数になると考えられる。独居異状死のうち、65歳以上の方はどれくらいか。

警察本部長 ▼平成30年が522体中368体、令和元年が531体中381体、令和2年が531体中374体、令和3年が518体中363体となっている。

●毎年約7割。つまり3割は65歳以下。孤立死は決して高齢者だけの問題ではないということがわかる。

●平成24年に総務省が愛知県で行った「公的住

宅における孤立死防止対策」調査では、孤立死のうち福祉施策が適用されていたのは2割にも満たず、施策の隙間で孤立死という問題が起こっている実態が明らかになった。また大阪府が、「死亡から発見まで4日以上経過した大阪市の独居孤独死」として、平成30年1240人、令和元年1171人、令和2年1314人という調査結果を公表し、現状分析を行い、孤立死防止につなげようとしている。滋賀でも実態調査等対策に取り組むべきではないか。

知事 ▼孤立死という状況に陥る前に、どのようなことができるのか、まずは、市町や関係団体、民生委員・児童委員などから、様々な事例を聞き、必要な取組等を考えていく。

警察本部長 ▼社会的にも重要な課題と認識しており、警察としても、その活動を通じて得られた情報をできる限り関係機関に提供していくなど、しかるべき対応をとる。

●対策の一つとして、精神医療体制の充実を！

●県立精神医療センターで新規の予約が取れず、3ヶ月待ちとも聞く。現状と原因は。

●民間の精神科でも同様の状況があると聞く

健康医療福祉部長 ▼県内の精神科医は人口10万人当たり全国が12.6人であるのに対し、本県は9.1人と全国で3番目に少なく、新規の予約が取りにくい状況だ。

現在、地域のかかりつけ医にうつ病対策、産科医に産後うつ、小児科医に発達障害や児童・思春期精神疾患に関する研修を実施し、他の診療科目の専門医が精神科領域を診ることが出来る取組を進めている。

奨学資金貸与や魅力ある職場作りを促進し、精神科医の県内定着、確保にも努めていく。

動物保護管理推進事業費について

●ふるさと納税の寄付実績は

健康医療福祉部長 ▼令和2年度から滋賀応援寄附の1×ニューとして動物愛護を追加し、令和2年度は40件430万円、令和3年度は2月末時点で89件416万円をいただいた。

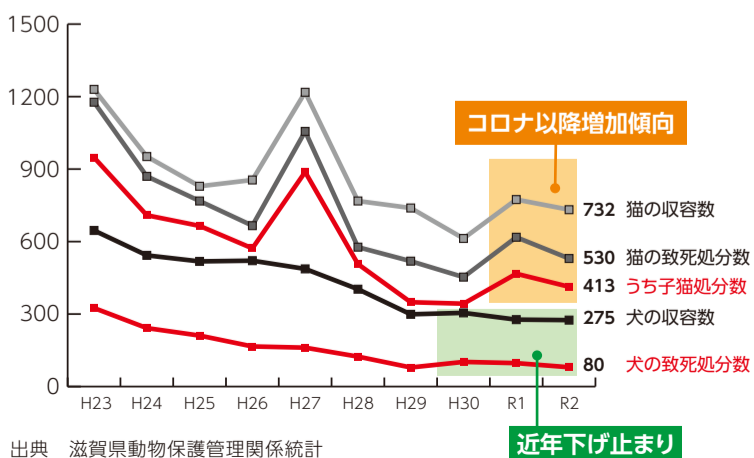
●元々事業費800万程度のところ大きな金額だ。新年度予算にどう反映されているのか。

健康医療福祉部長 ▼地域猫活動の支援や適正飼養の啓発リーフレット作成、飼育スペース改善のための改修に活用してきた。令和4年度についても、譲渡拡大など致死処分ゼロにつながる事業に充当していく。

●知事3期目の致死処分ゼロ達成に向けて、この予算でどこまで進むと考えているのか。

知事 ▼コロナ禍で飼育数が増える一方、無責任に手放す事例や、孤立孤独により多頭飼育に陥ってしまう例もある。多頭飼育に陥らないための予防啓発や地域猫活動の推進による収容数の削減、保護犬・保護猫の譲渡や適正飼養の周知を行い、致死処分ゼロに向けた取り組みを、しっかりと前向きに進めていく。

滋賀県における犬猫収容数と致死処分数の推移



●特別支援学級の加配基準の変更内容について

教育長▼平成16年度から、小中学校の特別支援学級で在籍数が7人および8人の学級に、県単独予算で非常勤講師の配置を進めてきた。近年、特別支援学級数が平成16年の10クラスから、令和3年では、291クラスと増加しており、また市町や学校現場から、配置基準の引き下げを求める強い要望もあり、限られた予算と人員の中で検討を進め、令和4年度から、**対象を6人以上に拡大し、必ずしも教員免許所持を求めず外部人材を活用する学習アシスタントという形で配置することとした。**また、近年臨時講師が不足していることから、教員免許を持った方には臨時講師等として活躍いただけることも期待している。

●加配に教員免許が不要となるということだが、子ども達への教育の質は担保できるのか

教育長▼現在基本は、学級担任が授業を行い、子どもの理解の確認、課題や作業の支援等学習サポートを行うために非常勤講師を配置している。これが学習アシスタントに代わっても、教育の質は担保できるものと考ええる。

●講師への誘導はどう進めるのか。

教育長▼臨時講師等の確保は喫緊の課題であり、これまで処遇改善や募集方法の見直しに取り組んできた。教員免許のある方には、学校長等を通じて、今回の経緯を丁寧に説明をし、理解を求めていく。



この件に関しては、予算特別委員会等で他の議員が関連質疑を行い、教育常任委員会でも議論が交わされるなど波紋が広がりました。限られた予算と人材の中で優先順位をつけざるを得ないということ、一定理解はしますが、様々な懸念も上がっている。何より子供達のために、マイナス影響が出ないよう、引き続き注視していきます。

違法個室マッサージ店、ついに摘発!!

2020年9月議会で質問した「住宅地の真ん中にできた違法性が疑われる個室マッサージ店」。この2月によろしく風営法違反で摘発されました。地道な捜査を続けてくれた警察のみなさんに感謝です。質問以降「リラクゼーション」等の事業所の把握も県で一定行われるようになり、県民の安心のための施策がさらに進むよう、引き続き取り組みます。

令和4年度 当初予算編成

あなたもわたしも「シガリズム※」 みんなでつくろう「健康しが」

令和4年度当初予算の一般会計総額は、約6,440億円。過去最大規模となった前年度と比べると約230億円(3.4%)の減額、過去2番目の規模の予算編成となりました。

新型コロナ対策関連の予算としては、医療提供体制の充実・強化するための事業が増額となった一方で、中小企業振興資金貸付金は減額、また、通常分の予算としては、看護、介護、障害福祉などの現場で働く方々の収入の引上げ、CO₂ネットゼロ推進費、びわ湖ホール施設整備費等が増額となった一方で、国スポ障スポ大会関係施設整備は減額としています。

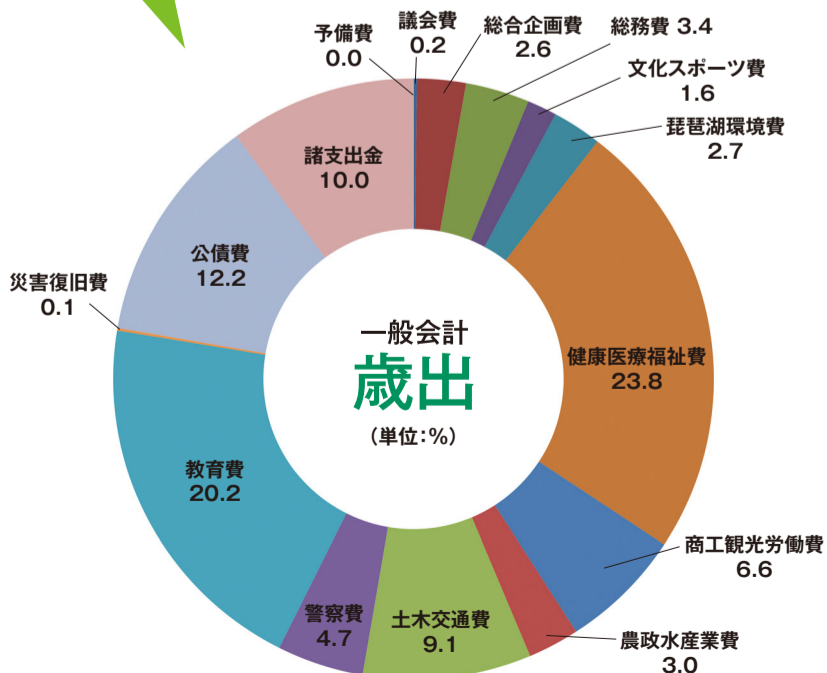
現在が大きな転換期にあるとの認識の下、基本構想に掲げる「未来へと幸せが続く滋賀」の実現に向けて「滋賀らしく歩んでいける一年」にしていきたい、という考えで予算が編成されました。

一方で、令和4年度当初予算案の段階での財源不足額は196億円となり、昨年度の当初予算の不足額と比較して76億円増加し、さらに厳しい財政状況となっています。

※シガリズムとは?

琵琶湖を真ん中に自然の四季を大切に味わい、みんな仲良く支えあって生きること、人間だけでなくすべての生きものを慈しむこと、今を生きる世代だけでなく、未来の世代のことを考えること。こういった滋賀のリズムに、三方よしなどの先人の教えに息づく滋賀のイズムを加えた意味を持つ。

一般会計予算 約6,440億円



令和4年度予算では、新型コロナウイルス感染症に関し、これまでの経験を活かして、滋賀らしく、より賢明に対応しつつ「子ども」を中心に据えて施策を展開し、その上で、「健康しが」(ひとの健康、社会の健康、自然の健康)の再構築を進めていきます。

また、これらを買うテーマとして「ひとづくり」を最も重視し、「DXの推進」「より良き自治の追求」にも力を入れていきます。

主な事業

■ 新型コロナウイルス感染症対策

医療提供体制の充実・確保	393億5730万円
学びの機会の確保	4億1780万円
経済・雇用・生活支援	304億410万円

■ ひとづくり

「令和の時代の滋賀の高専」設置事業	5790万円
滋賀の産業を担う人づくりの推進	8540万円

■ ひとの健康(子ども・次世代、こころの健康)

子どもが生まれる前からの切れ目のない子育て支援 ・リトルベビー等家族への支援・保育人材の確保・保育の質の向上	1億9410万円
困難を抱える子ども・若者への支援 ・新たな子ども家庭相談センター(児童相談所)の設置に着手 ・ヤングケアラーへの支援・ケアラーの継続的支援	2億7280万円
個別最適な学びの推進 ・子ども一人ひとりの学びの最適化・副籍(副次的な学籍)の制度化	2220万円
しがの魅力ある“公園”づくり ・都市公園の民間活力導入・希望ヶ丘文化公園、びわ湖文化公園都市活性化	1億2900万円
自然・動物とのつながり ・自然資源の保全活用・人と動物の豊かな関わり	1300万円
文化やスポーツを通じた元気づくり ・「彦根城」世界遺産登録推進事業・新しいマラソン大会の開催	14億5840万円

■ 社会の健康(活力ある滋賀づくり)

コロナ禍を経た新たな時代に対応する滋賀らしいツーリズム「シガリズム」の推進 ・シガリズムのコンテンツの創出・PR等・ピワイチのブランド力アップの加速化	3億9920万円
地域公共交通の維持・強化 ・「滋賀交通ビジョン」見直しに向けた調査検討 ・地域特性に応じた交通ネットワーク構築事業	6億7800万円

■ 自然の健康(グリーン社会への挑戦)

CO ₂ ネットゼロ社会の実現に向けた挑戦 ・滋賀県CO ₂ ネットゼロ社会づくり推進基金の造成 ・資源の地域内循環による地域の活性化	64億3280万円
第72回全国植樹祭開催(6月5日(日))事業 「やまの健康」推進プロジェクト ・森林の適正管理・農山村の活性化・林業の成長産業化	5億2160万円 37億7800万円

■ 「より良き自治」の追求、DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進

図書館を生かしたまちづくり	1670万円
滋賀県DX推進支援事業	920万円